

フットサルを楽しむための競技規則抜粋

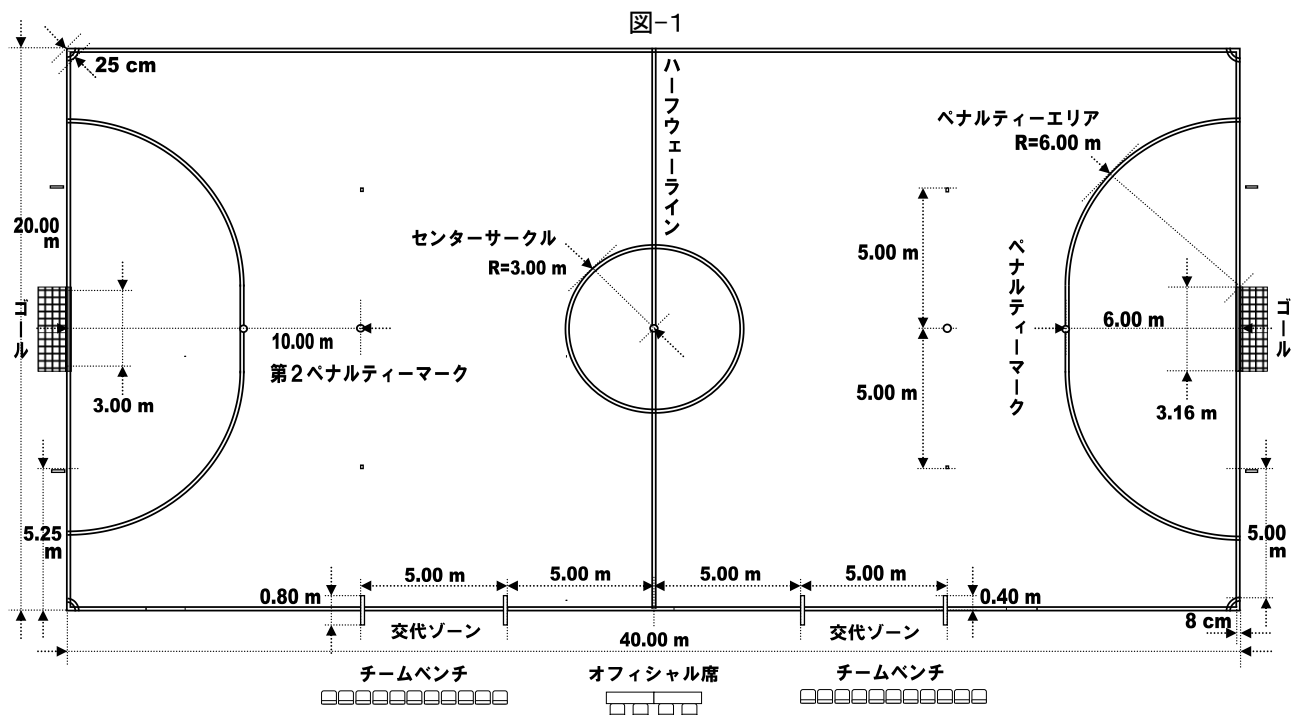
2018年12月15・16日

小金井市サッカー協会

第1条 ピッチ

長さ(タッチライン)29m、幅(ゴールライン)18m(国際試合:長さ38m~42m、幅20m~25m)

ゴールの大きさ:高さ2m 幅3m、ゴールポスト・クロスバーの幅8cm、すべてのラインの幅8cm



第2条 ボールフットサル用ボール。外周64cm以下62cm以上。重さは試合開始時440g以下400g以上。

空気圧は、0.6~0.9気圧。2mの高さから落下させて最初のバウンドが50cm以上、65cm以下。

小学生用3号球を使用。

第3条 競技者の数

1チーム5人で1人はゴールキーパー。いずれかのチームの競技者が3人未満の場合、試合は開始されない。

また、片方のチームのピッチ上の競技者の数が3人未満になった場合、試合は中止される。

交代要員は、最大9人までとする。試合中の交代回数は、無制限で次の条件によりいつでも交代できる。ゴールキーパーも同様にいつでも交代できる。アウトオブプレーを待つ必要はない。

定められた交代ゾーン(自分のチームベンチ前)から交代する競技者がピッチから外に出るまで、交代要員はピッチに入ることができない。

【違反と罰則】

- 交代する競技者がピッチから出る前に交代要員がピッチ内に入った場合、競技は停止される。(アドバンテージを適用できる場合は即座に止めない)
- 交代する競技者は警告され、ピッチから離れるよう命じられる。プレーを停止した場合、ボールのあった位置から相手チームの間接フリーキックにより再開される。

【競技者・交代要員の退場】

交代要員は退場になった競技者に代わることができ、退場後2分間が完全に経過したのち副審の承認を得てピッチに入ることができる。

- 人数の多いチームが得点した場合、人数の少ないチームは一人だけ競技者を補充できる。
- 両チーム同数の競技者でプレーしている場合、2分間が経過するまで同数の競技者のままとする。
- 人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。

※2分間経過する前に得点があった場合の補充

- ・5人 VS 4人 → 5人のチームが得点した場合、補充できる
 - ・4人 VS 4人 → 補充はしない
 - ・5人 VS 3人 → 5人のチームが得点した場合、1人だけ補充出来る
 - ・4人 VS 3人 → 4人のチームが得点した場合、1人だけ補充出来る
 - ・3人 VS 3人 → 補充はしない
- ・競技者が退場となる違反を犯したのちアドバンテージが適用され、退場を命じられる前に得点された場合、違反は得点される前に犯されたのでそのチームの競技者数は減らされない。
- ・ハーフタイムのインターバル中、または延長戦の前後半開始前に競技者が退場となる反則を犯した場合、そのチームは後半または延長戦の前後半を一人少ない競技者で開始する。

第4条 競技者の用具

競技者は自分自身や他の競技者に危険となるような用具やその他のもの(宝石類を含む)を身に着けることができない。(競技者を傷つけないものであれば、スポーツめがねの使用は認められる)

- (1) 必ず着用しなければならないもの: ジャージーまたはシャツ、ショーツ、ストッキング、すね当て、靴
- (2) 靴: キャンパスまたは柔らかい皮革製で、靴底がゴムまたは類似の材質のトレーニングあるいは体育館用シューズのタイプのもの。(国内ではソールの接地面があめ色か白色のみ許可されることが一般的)
- (3) ゴールキーパーは、長いトラウザーズを着用することができる。
- (4) それぞれのゴールキーパーは、他の競技者及び審判員と容易に区別がつく色の服装をする。
- (5) フィールドの競技者がゴールキーパーと入れ替わる場合、競技者が着用するゴールキーパーのジャージーにはその競技者自身の背番号を付ける。
- (6) すね当てはストッキングで完全に覆われていなければならない。

第5条 主審・第2審判

主審は副審がない場合、タイムキーパーおよび第3審判の任務を担う。

主審と第2審判が同時に違反に対して合図をし、どちらのチームを罰するか不一致があった場合、主審の判定が優先される。

主審と第2審判は、ともに警告・退場を命ずることができるが、判定が異なった場合主審の判定が優先される。

第6条 副審

第3審判とタイムキーパーは、交代ゾーンのあるハーフウェーラインのところに位置する。

第3審判は、タイムアウト要求用紙をチーム役員に渡す。退場者に代わる交代要員がピッチに入場できる時間を示す用紙をチーム役員に渡す。

タイムキーパーは試合時間を計測し、前後半の終了および延長戦の前後半の終了・タイムアウトの終了を、主審・第2審判の笛と区別する音で合図する。

第7条 試合時間

試合は16分のランニングタイム。(前半、後半ともに8分間)ハーフタイムのインターバルは2分。

【前後半の終了】

いずれかのゴール方向にボールがプレーされた後に前後半の終了の音が鳴った場合、各ハーフは次のときに終了する。

- ・ボールが直接ゴールに入り得点となったとき。またはボールがゴールキーパーあるいは他の守備側競技者・ゴールポスト・クロスバーに当たりゴールラインを超えた、あるいは得点となったとき。
- ・守備側ゴールキーパーまたは他の守備側チームの競技者がボールを止めたとき、またはゴールポスト・クロスバーから跳ね返りゴールラインを越えなかったとき。
- ・ボールがピッチの境界線を越えたとき。
- ・ボールが攻撃側チームの競技者に触れたとき。(直接フリーキック、間接フリーキック、またはペナルティーキックとなる違反が犯されていない場合)

【タイムアウト】

- ・チームは、前後半それぞれ1分間のタイムアウトを要求できる。
- ・両チームのチーム役員は第3審判に対してタイムアウト要求用紙を用いて要求する。タイムアウトの要求はいつでもできるが、要求するチームがボールを保持している時に限り認められる。
- ・タイムアウト中、交代要員およびチーム役員はピッチ外にいないなければならない。
- ・延長戦ではタイムアウトは取れない。

第8条 プレーの開始および再開

コインをトスし、勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。(他方のチームがキックオフを行う)

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

ピッチ面または空中にかかわらずボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に越えた、主審・第2審判がプレーを止めた、ボールが天井に当たった場合はアウトオブプレーとなり、それ以外はインプレーである。

第10条 得点の方法

手で投げ入れての得点はできない。キックオフから直接得点できない。

第12条 ファウルと不正行為

ファウルは競技者によって犯され、ボールがインプレー中でありピッチ内で起きることである。

【直接フリーキックで罰せられるファウル】

- ・直接フリーキックで罰せられるファウルの7項目を、不用意に・無謀に・または過剰な力で犯した場合。
- ・直接フリーキックで罰せられるファウルの3項目を犯した場合。
※直接フリーキックで罰せられるファウルは、累積ファウルである。

【間接フリーキックで罰せられるファウル】(ゴールキーパーによる反則)

- ・ピッチの自分自身のハーフ内で、4秒を超えて手や腕または足でコントロールする。
- ・ボールをプレーしたのち相手競技者がプレーまたは触れる前に、自分自身のハーフ内で味方競技者によって意図的にゴールキーパーに向かってプレーされたボールに再び触れたとき。
- ・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者からキックされたボールを直接手または腕で受ける。
- ・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者がキックインしたボールを直接手または腕で受ける。
※ゴールキーパーがボールを体のいずれかの部分で触れることはボールをコントロールしていると判断されるが、偶発的にゴールキーパーから跳ね返ったボールについてはその範囲ではない。

【退場となる反則】

退場を命じられた競技者または交代要員は、ピッチおよびテクニカルエリア周辺から離れなければならない。

第13条 フリーキック

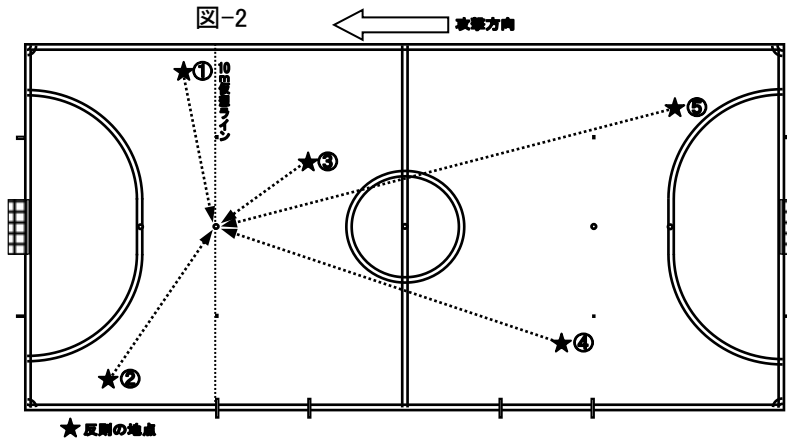
相手競技者は5m以上離れなければならない。ボールが触れられるかプレーされたのちインプレーとなる。

- ・フリーキックを行うチームが4秒を超えて時間を費やした場合、相手チームに間接フリーキックが与えられる。
- ・ペナルティーエリア内で守備側チームに与えられたフリーキックは、エリア内の任意の地点から行える。

【累積ファウル6つ目からのフリーキック】

- ・守備側チームの競技者はフリーキックに対して壁を作れない。
- ・キッカー以外の競技者はボールの後方で、インプレーになるまで5m以上ボールから離れなければならない。
- ・ゴールキーパーは、自分のペナルティーエリア内で5m以上ボールから離れる。
- ・キッカーは正しく特定され、他の競技者にボールをパスすることなく得点を狙ってキックする。
- ・フリーキックが行われたのち、ゴールキーパーがボールに触れるかゴールポスト・クロスバーから跳ね返る、またはピッチの外へ出た後でなければ競技者はボールに触れることはできない。
- ・競技者がペナルティーエリア外のピッチの味方ハーフ内の10mの仮想ラインとゴールラインとの間で累積6つ目のファウルを犯した場合、攻撃側チームはキックを第2ペナルティマークから行うか、違反が起きた場所から行うか選択する。(図2-(1)参照)
- ・延長戦が行われる場合、後半の累積ファウルはそのまま延長戦に持ち越される。

図-2



- (1) 味方ゴールラインから10メートルの仮想ラインとの間の地域でのファウルはその地点からフリーキック行うか第2ペナルティーマークからのキックを行うかをチームは選択できる。(①、②)
- (2) 味方ゴールラインから10メートルの仮想ラインより相手側のピッチ内のファウルは、第2ペナルティーマークからフリーキックを行う。(③、④、⑤)

違反	ゴール	ノーゴール
攻撃側競技者	(壁なしの)フリーキックを再び行う	間接フリーキック
得点を狙ってシュートしない	—	間接フリーキック
特定された以外の競技者のキック	間接フリーキック	間接フリーキック
守備側競技者	ゴール	フリーキックを再び行う
両チーム	フリーキックを再び行う	フリーキックを再び行う

第14条 ペナルティーキック

- キッカーを確実に特定する。守備側ゴールキーパーは、キッカーに面してゴールライン上にいる。
- キッカー以外の競技者は、ピッチの中において、且つペナルティーエリアの外に位置し、ペナルティーマークの後方にいてペナルティーマークから5m以上離れる。

第15条 キックイン

- 相手競技者は、ピッチ内で、キックインを行うタッチライン上の場所から5m以上離れる。
- キックインを行う競技者は、いずれかの足の一部をタッチライン上、またはタッチラインの外のピッチ面につける。
- ボールがピッチから出た地点、またはピッチ外でその地点から25cm以内の場所から必ず静止したボールをける。
- ボールは、ける準備ができてから4秒以内にける。
- キックインから直接得点することはできない。

*キックインがおこなわれ、ピッチ内に入らずタッチラインを割った場合は、相手チームのキックインで再開

第16条 ゴールクリアランス

- 攻撃側競技者が触れたボールがゴールラインを越え第10条の得点とならなかった場合ゴールクリアランスとなる。
- 守備側のゴールキーパーがペナルティーエリア内の任意の地点からボールを投げる。
- ゴールクリアランスからは直接得点することはできない。
- 守備側のゴールキーパーがゴールクリアランスを行う準備ができてから、4秒以内に行う。
- ボールがインプレーになったのち、相手競技者がプレーまたは触れていないにもかかわらず、ゴールキーパーが自身自身のハーフ内で味方競技者によってゴールキーパーに向けてプレーされたボールに再び触れた場合、違反が起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。
- ゴールクリアランスが正しく行われなかった場合は(ペナルティーエリア外から投げるなど)、やり直しとなる。

*ゴールクリアランスからボールが直接ペナルティーエリア外に投げ出されなかった場合、ゴールクリアランスは再び行われるが、4秒のカウントはリセットされず、ゴールキーパーがゴールクリアランスの準備ができてから、続けてカウントされる。

第17条 コーナーキック

- ボールが出た地点に近い方のコーナーアークの中にボールを置く。
- 相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ピッチ内でコーナーアークから5m以上離れる。
- コーナーキックは4秒以内に行う。4秒以内に行われなかった場合、相手チームのゴールクリアランスとなる。
- コーナーキックの進め方およびボールの位置に関するその他の違反が起きた場合は、コーナーキックのやり直し。